

「 Unit 4 」 Homestay in the United States

～ This is Japanese style! ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 思考力, 判断力, 表現力等 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和3年9月21日 12:55 ～ 13:45
- 2 学年 第2学年1組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場所 新館3F 2年1組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、生徒のアメリカでのホームステイについて扱う。本文では、ホームステイに臨む際のアドバイス、家庭内でのルール、ステイ中に感じた問題点、ホームステイでの体験談などについて触れられており、習慣や文化の異なる環境での生活やマナー、コミュニケーションの大切さや難しさについて考えさせることができる。言語材料としては、have to ～, don't have to ～, must, must not, 動名詞を扱っており、しなければいけないことやルール、アドバイスなどを尋ねたり伝えたりすることができる。

本単元では、中学校学習指導要領外国語における「書くこと」の目標である「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。」を指導することと位置づける。

○ 生徒観

本学級の生徒は、明るくて前向きな生徒が多い。挙手して発言する生徒も多いが、ペアトークなどの活動ではどの生徒も積極的に活動に参加する。しかし、既習事項の定着が不十分のため、自信をもって発言する生徒は限られる。アンケート結果は以下の通りである。

質 問	肯定的評価
・英語は好きですか。	74%
・英語は得意ですか。	29%
・SNS で海外の有名人（スポーツ選手、アーティストなど）の英語の投稿を見たことがあります。	52%
・海外の有名人の投稿にコメントしてみたいと思います。	32%
・海外の有名人の投稿にコメントするなら、不安に思うことなどを教えてください。 <u>自分が言いたいことが外国の人にきちんと伝わるか不安。</u> （5件） 友達や他人に見られるのが嫌だ。（6件） 間違った単語を使ってしまい、相手が不快な気持ちにならないか不安。（1件） 言い合いになったりするかもしれないと不安。（1件） Googleなどで調べることができるので書ける。（1件）	

英語の授業は好きであるが、得意とは言えない生徒が多い。最近ではSNS上の翻訳機能などもあり、有名人の投稿を気軽に見ているようである。しかし、翻訳機能があったとしても書くことに不安を感じる生徒が多い。

○ 指導観

指導に当たっては、主体的な学びにつながるように、ICTを活用し、「ALTからのメールに返信する」という現実的で、生徒の生活に身近な活動を行うこととする。また、生徒の生活や体験に基づいて書くことができる内容にする。日本の文化やマナーを知らない人に正しく内容が伝わるように、読み手の気持ちやその人の背景にある文化まで考えた内容を考えさせたい。

さらに、基本文（既習事項）の活用を徹底させ、自信を持って言語活動に取り組みせたい。単元を通して行う基本文の小テストと、ウォーミングアップで行う1分間チャットで、基本文をもとに自分の考えや思いを英語にする時間を多く設け、既習事項の定着と自信をもって活動する姿を目指したい。本時では「自分の考えを伝えたい」と思わせるために、課題をいくつか用意し、自分で選択できるようにする。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（話す talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- 新しいALTに日本の習慣やマナーを伝えることができる。 (書くこと)

7 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① have to, 助動詞 must, 動名詞の特徴やきまりを理解している。 ② 自分のスケジュールや学校のルール, ホームステイについて, しなければならないことやアドバイスを考えて, have to, 助動詞 must, 動名詞などを用いて書く技能を身につけている。	① 日米の生活習慣や文化の違いを知り, とともに暮らすヒントを考えるために, 事実や書き手の気持ちを整理してホームステイの体験談の概要を捉えている。 ② 日本に来る予定の外国人に知ってもらうために, 日本の習慣やマナーについて, 簡単な語句や文を用いて書いている。	① 日本に来る予定の外国人に知ってもらうために, 日本の習慣やマナーについて, 簡単な語句や文を用いて書こうとしている。

8 指導計画 (全11時間)

過程	次	学習内容 (時数)	観 点			評 価	
			知 技	思 判 表 表	態 度	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	日本に来た外国人の悩みを知ろう (1時間)			○	・日本に来る予定のALTに伝えるために, 日本の習慣やマナーについて, 簡単な語句や文を用いて書こうとしている。(ウ①) (観察)	
本質的な問い 困っている人がいたらどうするのか。 単元を貫く問い (探究課題の萌芽) 日本の文化や風習を知らない人に教えよう。							
情報収集	2	have to, don't have to, must の形・意味・用法理解 (2時間)	○			・have to, 助動詞 must, 動名詞の特徴やきまりを理解している。 (ア①) (ワークシート・テスト)	【表現力】 (ワークシート)
	3	動名詞の形・意味・用法理解 (2時間)	○			・have to, 助動詞 must, 動名詞の特徴やきまりを理解している。 (ア①) (ワークシート・テスト)	【表現力】 (ワークシート)
整理・分析	4	本文内容理解 (4時間)		○		・日米の生活習慣や文化の違いを知り, とともに暮らすヒントを考えるために, 事実や書き手の気持ちを整理してホームステイの体験談の概要を捉えている。(イ①) (ワークシート・テスト)	【表現力】 【思考力・判断力・表現力等】 (ワークシート)

まとめ・創造・表現	5	本文の内容に対するアドバイスを考える (1時間)	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> 自分のスケジュールや学校のルール、ホームステイについて、しなければならないことやアドバイスを考えて、have to, 助動詞 must, 動名詞などを用いて書く技能を身につけている。(ア②) 日本に来る予定の外国人に知ってもらうために、日本の習慣やマナーについて、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。(ウ①) (ワークシート) 	【コミュニケーション能力・主体性】【思考力・判断力・表現力等】 (観察)
実行・振り返り	6	日本の文化を知らない ALT に日本の文化を教える (2時間) 【本時1 / 2】		○	<ul style="list-style-type: none"> 日本に来る予定の外国人に知ってもらうために、日本の習慣やマナーについて、簡単な語句や文を用いて書いている。(イ②) (Chromebook ドキュメント) 	【コミュニケーション能力・表現力】【思考力・判断力・表現力等】 (観察)
単元を貫く問いの終結 <ul style="list-style-type: none"> ・ have to や don't have to, 助動詞 must を使うと、ルールやマナーを教える。 ・ 外国にはいろいろな文化があるので、それぞれの考え方を尊重したい。 						

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○日本の文化を知らない ALT に日本の文化を教えることができる。(書くこと)

(2) 本時の評価規準

・日本に来る予定の外国人に知ってもらうために、日本の習慣やマナーについて、簡単な語句や文を用いて書いている。(イ②)

(3) 準備物

・Chromebook ・テレビ ・ワークシート

(4) 学習の流れ (12時間目 / 全12時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。【5分】		
○あいさつ ○Warm up 【1 minute chat】	◇既習事項を活用させながら、1分間チャットに取り組ませる。 ◆基本文シートや Word Bank を参考にさせる。 ◇次回につながるように、わからなかった表現を全体でシェアさせる。	

2 本時の学習課題を設定する。[5分]

○オリンピック選手などが日本の文化に困ったエピソードを紹介する。

◇実際の SNS の投稿を紹介し、何に困ったのか、どんなアドバイスをしたか確認する。

学習課題

日本の文化や風習を知らない人に教えよう。

3 本時のねらいを確認する。[1分]

○ねらいを確認する。

ねらい

日本の文化を知らない ALT に日本の文化を教えることができる。

4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[15分]

○ALT からのメールを確認する。(5種類)

◇前時に配布したプリントで内容を確認する。

◆英文のみ書かれているメールと、英文とその訳が書かれているメールを用意する。

・日本に来る予定の外国人に知ってもらうために、日本の習慣やマナーについて、簡単な語句や文を用いて書いている。

〔思考・判断・表現〕

【観察・Chromebook ドキュメント】

○アイデアを整理させる。

◇アイデアをまとめさせるために、マッピングを使用させる。また、「メールで返信する」という設定のため、メールの型も簡単に説明する。

★思考力・判断力・表現力等

【観察・Chromebook ドキュメント】

○アイデアを基に英文を考える。

◇机間巡視を行い、アドバイスをする。

◆基本文を参考にしよう声かけをする。

例 I

Hello! I'm Lin.

Next month, I will go to Japan to teach English. So, I'm interested in Japanese culture.

In America, we usually give a tip at a restaurant. How much do I have to give a tip at Japanese restaurant? Please tell me.

By for now,

Lin

導入の工夫

単元を貫く問い

ICTの活用

5 課題解決について発表をする。[10分]		
○グループ内で発表し、お互いの内容にアドバイスを する。	◇内容に関してアドバイスさせる。	
○わからない表現を全体で シェアする。	◇言いたいけれど表現が思いつかない文な どをシェアしたり、書いている良いフレー ーズを紹介したり、アドバイスをしたり する。	
6 学習のまとめをする。[10分]		
○友達からのアドバイスを 参考に、再度英文を書く。	◇グループ内での教え合いをするように促 す。	
<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 Hi, Lin. I was surprised that you give a tip at a restaurant. In Japan, we don't have to give a tip at a restaurant. You must pay only the price of food. Also, we must not take food to your home at many Japanese restaurants. I hope you will enjoy you stay in Japan. See you.</p> <p>B評価 Hi, Lin. In Japan, we don't have to give a tip at a restaurant. See you.</p>		
7 本時を振り返り、次時につなげる。[4分]		
○振り返りを書く。		
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家族のルールを教えることができた。 ・相手が知らないと思うので、理由も一緒に書くことができた。 ・基本文を参考にして、説明することができた。 		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	既習事項や新出文法を使って、自分の体験したことや調べたことを加え、日本の文化を紹介する英文を5文以上書くことができる。
B（合格）	既習事項や新出文法を使って、日本の文化を紹介する英文を5文で書くことができる。
C（乗り越えさせたい実態）	日本の文化を紹介する英文を3文でなら書くことができる。

(5) 板書計画

Unit Unit 4 Homestay in the United States

Task 日本の文化や風習を知らない人に教えよう。

Today's Goal 日本の文化を知らないALTに日本の文化を教えることができる。

Mail 1

チップについて

Mail 2

お寺・神社の
お参りの仕方

Mail 3

温泉の入り方

Mail 4

日本の学校につ
いて

Mail 5

クリスマスにつ
いて